

第3回今治市中心市街地創生デザイン会議 議事概要

日 時：令和6年2月28日（水）午後1時30分～午後3時50分

場 所：今治市みなと交流センター「はーばりー」 1階 みなとホール

出席者：井口梓、大成経凡、羽鳥剛史、南條仁、原竜也、越智智美、窪仁志、白石道子、青陽孝昭、松野義也、山本優子（第一号委員から第三号委員毎に五十音順）

議事

1. 今治市中心市街地まちづくり構想の実現に向けて

- (1) 前回の振り返りと本日の検討事項
- (2) 施設再編パターンの比較検討について【公共施設等再編部会】
- (3) 中心市街地公共空間デザイン戦略（案）について【公共空間再編部会】
- (4) 今後のスケジュール

議事概要

○施設再編パターンの比較検討について

【委員意見】

- ・ 候補地A～Dのそれぞれの案で、実現にはどの程度のコストが発生するのか。様々な価格が高騰しているため、タイミングも重要になる。
- ・ 【事務局】関係団体とは複合化に向けた基本合意の締結（令和7年12月を目標）を目指しており、その時点で規模や概算事業等の検討を行う予定である。
- ・ D案（現庁舎の耐震改修）になる場合は、シビックゾーンの再編にはつながらないのか。
- ・ 【事務局】できる限りA～C案のいずれかを検討しているが、全ての関係団体が案に賛同いただけない場合としてD案を検討している。
- ・ ネウボラ施設についてはシビックゾーン内で先行的に動いているため、制約条件として捉える必要がある。また、情報共有も必要である。
- ・ 小さな子どもがいたら、ネウボラ施設に来たついでに近くの公園で遊んで行きたいが、離れた場所にあると車で行く必要がある。
- ・ A案（芝っち広場周辺）は他の活用用途があると思われる。B案（県今治支局周辺）はシビックゾーンの中心にあるため、道路の課題をクリアできれば、ネウボラ施設や他の施設とも連携が図ることが可能と考える。
- ・ 建物や敷地の位置だけではなく、道路（街路）をどのようにするかも併せて検討する必要がある。

○中心市街地公共空間デザイン戦略（案）について

- ・ ハード整備だけではなく、ハードを使いこなす担い手も必要であるため、エリアマネジメントの考え方は重要である。
- ・ 【事務局】行政主導で整備したのに誰も使わない空間となることを避けたい。実際に整備された時に具体的な活動のイメージがあり、さらに活動が連携していくと中心市街地が 1 つの形になると考えられる。
- ・ 行政と民間で役割分担をしながら、それぞれができることを連動させることが重要。
- ・ 実際に整備されたものを使うのは、高校生等の若い人たちの年代である。活動と並行して、まちづくりの基礎的な部分を学んでもらい、担い手として育てていく観点も必要である。
- ・ 地域らしさをどう守っていくかを大事にしていきたい。プラットフォームの設立も実際には難しいと思うが、まずは中心市街地で行われているイベント活動を整理することもエリアマネジメントにつながるのではないかな。
- ・ プラットフォームはきっかけづくりのイメージで、具体的な問題意識ややるべきことを共有していくことができればよいと思う。